

釧路市のまちづくりに関する市民アンケート結果（概要版）

市民アンケート調査の結果概要

【実施概要】（P1）

- 調査時期：平成 29 年 8 月（郵送配布・郵送回収）
- 回答状況：1,412/3,500（回収率 40.3%）+ 中学校配布（79 人） = 計 1,491/3,579（41.7%）

【回答者属性】（P2～6）

- 性別：男性 43%、女性 57%
- 年齢：10～20 歳代 13%、30～40 歳代 23%、50～60 歳代 39%、70 歳代以上 26%
- 職業：会社員・公務員 26%、無職 25%、主婦・主夫 19%、パート・アルバイト 13% 他
- 住所：西部地域 22%、中部地域 40%（うち都心部 7%）、東部地域 33%
- 車の保有状況：保有（自分が運転）56%、保有（家族が運転）26%、非保有 14%

釧路駅の利用状況と満足度（市民アンケート）

【釧路駅の利用状況】（P6～8）

- 利用頻度は「ほとんどない」が 45%、「年に数回」が 39%と低頻度。
- 利用交通手段は「車（自分で運転）」（44%）、「車（送迎）」（20%）で車利用が主体。
・高齢者（70 歳代以上）は「バス」「タクシー」利用が多い傾向（いずれも 21%）
- 利用目的は「鉄道（特急）の利用」（41%）、「家族・知人の送迎」（38%）が主体。

【利用する施設と満足度】（P9～12）

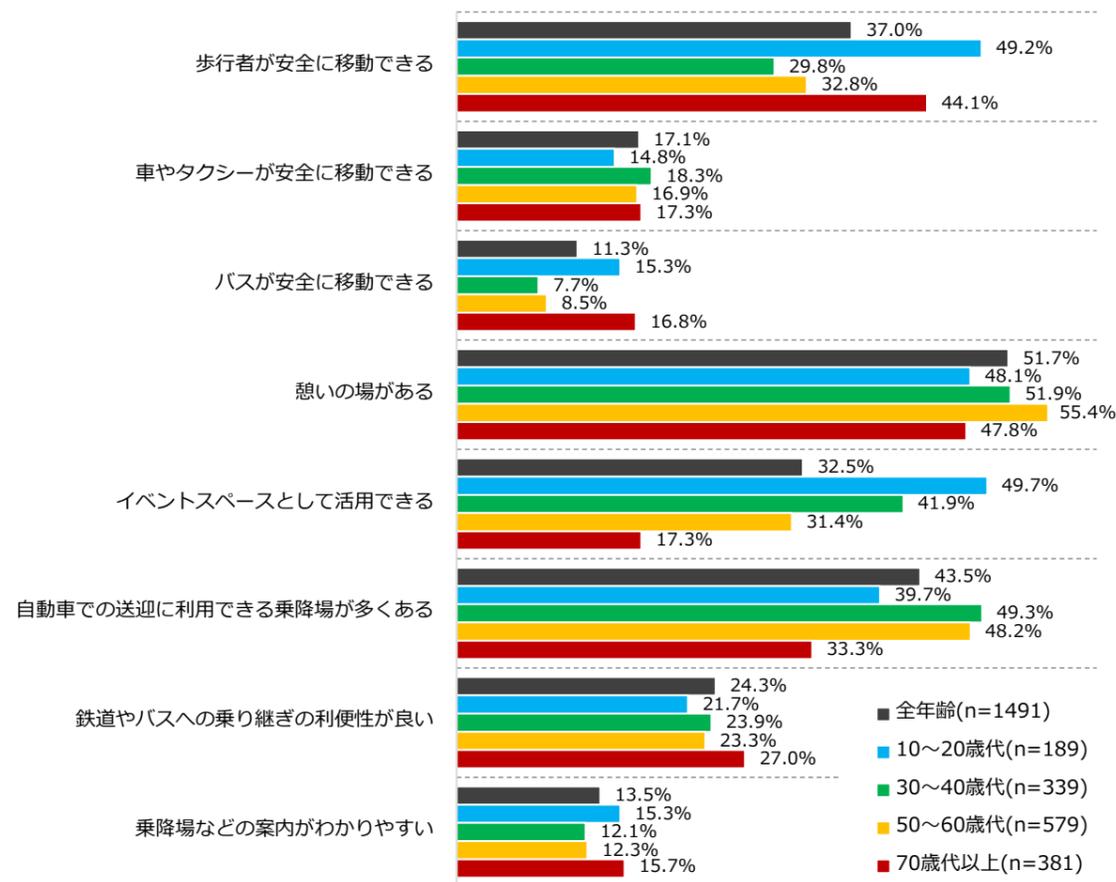
- 駅舎：老朽化、店舗の充実に対する意見が多数、不満足度（不満+やや不満）は 43%。
- 南口駅前広場：駐車場の充実に対する意見が多数、不満足度（同上）は 37%。
- 北口駅前広場：利用者自体が少なく、「何もない」という意見が多数、不満足度（同上）は 31%。
- 地下道：暗い、怖い、階段の登り降りが大変という意見が多数、不満足度（同上）は 46%。

釧路駅周辺のまちづくりについて（市民アンケート）

【駅前広場に望むこと】（P13）

- 「憩いの場」「送迎利用の乗降場が多くある」「歩行者が安全に移動できる」がトップ 3。
- ・若い世代（10～20 歳代）：「イベントスペース」「歩行者が安全に移動できる」を望む声が多い傾向。
- ・高齢者（70 歳代以上）：「乗り継ぎの利便性」「歩行者が安全に移動できる」を望む声が多い傾向。

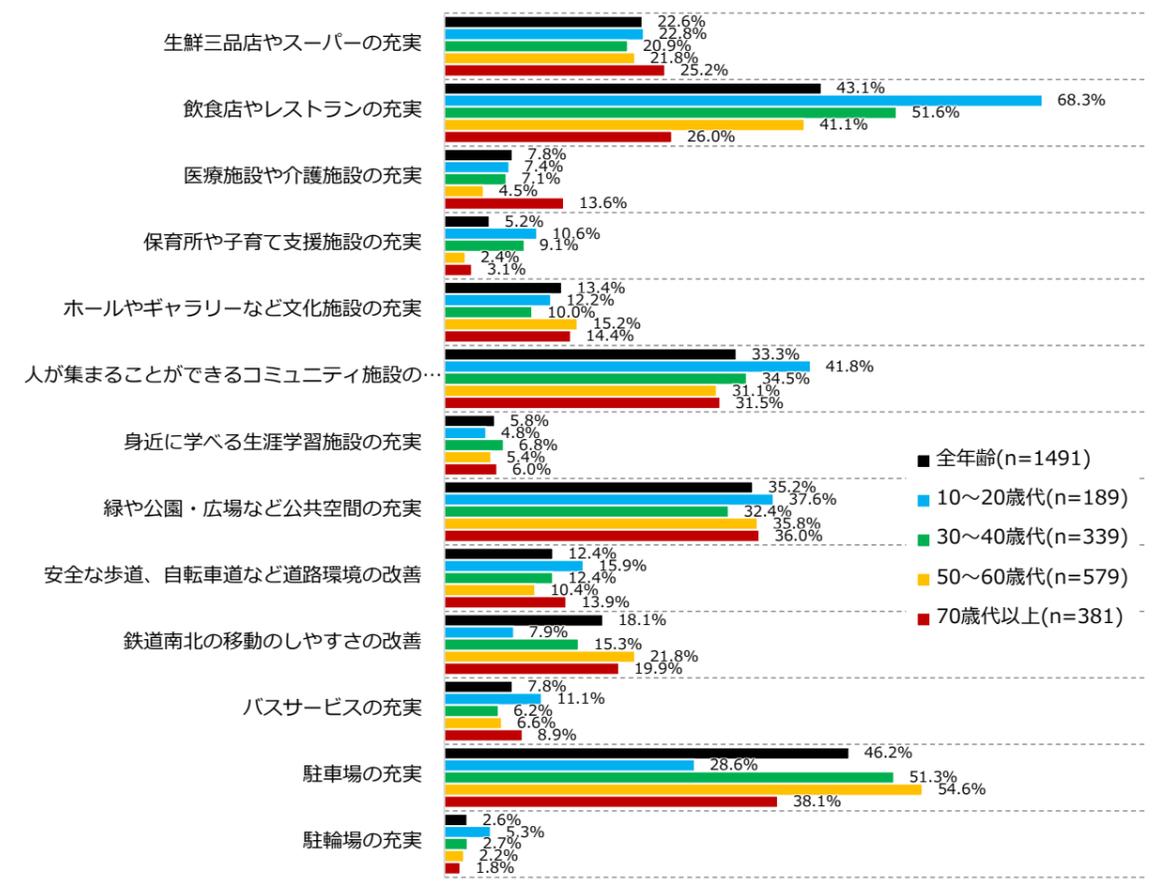
▼釧路駅周辺の活性化に向けて、どのような駅前広場が望ましいと思いますか。【○は3つまで】



【駅周辺の活性化に向けて取り組むべきこと】（P14）

- 「駐車場の充実」「飲食店やレストランの充実」「公共空間の充実」がトップ 3。
- ・若い世代（10～20 歳代）：「飲食店やレストランの充実」「コミュニティ施設」を望む声が多い傾向。
- ・高齢者（70 歳代以上）：「医療施設や介護施設の充実」を望む声が多い傾向。

▼釧路駅周辺の活性化に向けて、どのようなことに取り組むことが重要だと思いますか。【○は3つまで】



釧路市のまちづくりに関する市民アンケート結果（概要版）

都心部の利用状況について（市民アンケート）

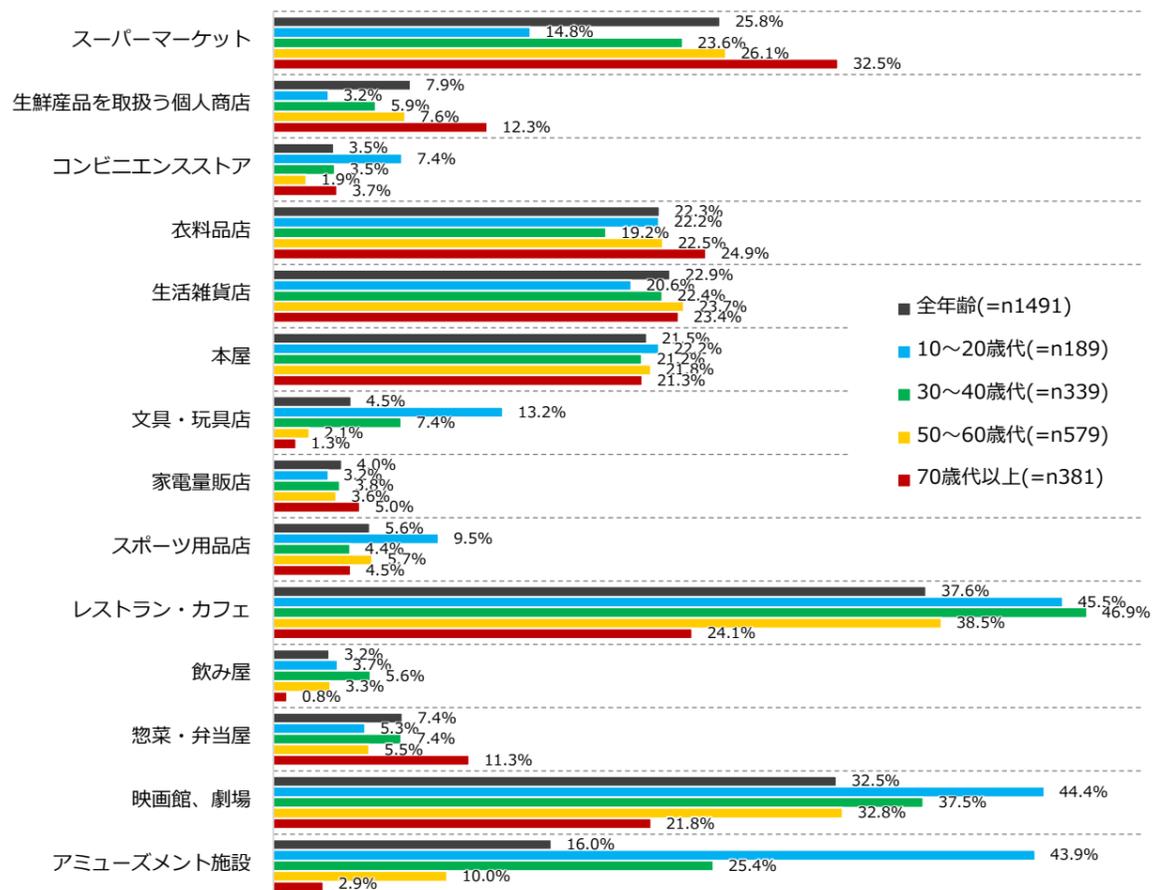
【都心部の利用状況】（P15～18）

- 利用頻度は「年に数回程度」が28%、「月に1～2回程度」が23%と釧路駅利用と比較して高頻度。
- 利用交通手段は「車（自分で運転）」が50%で車利用が主体。
 - ・高齢者（70歳以上）は「バス」（21%）利用が多い傾向
- 利用目的は「日用品の買物」「飲食・飲酒」「家族・知人の送迎」がトップ3。
 - ・若い世代（10～20歳代）：「通学」「レジャー・娯楽」目的が多い傾向。
 - ・生産年齢（30～60歳代）：「通勤」「飲酒・飲食」目的が多い傾向。
 - ・高齢者（70歳代以上）：「日用品の買物」目的が多い傾向。
- 滞在時間は「1時間未満」が33%、「1～2時間」が27%
- よく利用する施設は「市役所」「繁華街」「ビックハウス旭町」がトップ3。
 - ・若い世代（10～20歳代）：「ザ・ビック川北店」が多い傾向。
 - ・生産年齢（30～40歳代）：「繁華街」「子ども遊学館」が多い傾向。
 - ・高齢者（70歳代以上）：「市役所」が多い傾向。

【都心部に充実してほしい施設】（P19）

- 「レストラン・カフェ」「映画館、劇場」「スーパーマーケット」がトップ3。
- ・若い世代（10～20歳代）：「レストラン・カフェ」「映画館、劇場」「アミューズメント施設」を望む声が多い傾向。
- ・高齢者（70歳代以上）：「スーパーマーケット」、「生鮮産品を取扱う個人商店」を望む声が多い傾向。

▼ 都心部に充実してほしいと思うお店や施設を教えてください。【○は3つまで】



都心部の津波災害について（市民アンケート）

【認知度】（P20）

- 大津波による浸水被害の可能性についての認知度は81%と広く認知。

【避難行動】（P20～21）

- 大津波が発生した場合の行動として「近くの避難所へ逃げる」が73%。
- 避難所へ逃げる際には避難先までの「距離」（35%）、「建物の高さ」（31%）を重視。
- 避難路として「わかりやすい道路」（45%）、「幅の広い道路」（34%）を重視。

都心部への車利用について（市民アンケート）

【困っていること】（P22）

- 車で行く際に困っていることは「駐車場が少ない」など駐車場に関する意見が主体。

【駐車場利用や今後の交通行動について】（P23～26）

- 駐車場から歩く距離は、夏季は「3分以上」が56%を占めるも冬季は26%まで減少。
- 駐車場を選ぶ際に重視することは「目的地に近いこと」（59%）。
- 駐車場の問題など困っていることが改善された場合、都心部の利用頻度が「増えると思う」は46%。
- 運転免許返納後「バス利用を考えている」は約68%。バス利用を考えていない方の理由は、「バスの運行本数がすくないから」「時間がかかるから」が主体。

都心部の歩行環境や自転車の走行環境について（市民アンケート）

【徒歩利用】（P26～28）

- 歩く距離は、夏季は「3分以上」が58%、冬季は42%。
- 困っていることは「鉄道南北の移動」（21%）、「バリアフリー化されていない」（18%）が主体

【自転車利用】（P28～30）

- 自転車利用は11%に留まる。夏季は「買物・飲食」「レジャー・娯楽」等の利用あるが、冬季の自転車利用はほとんどない。
- 困っていることは「快適に走行できる環境が少ない」が45%で主体。

都心部居住の意向について（市民アンケート）

【都心部居住の利点（都心部内居住者）】（P31）

- 住んでみての利点として「買物が便利」「公共施設が充実」「通勤・通学先が近い」がトップ3。

【都心部居住の意向（都心部外居住者）】（P32～33）

- 都心部に住んでみたいと「思う」は7%に留まる。
- 「思う」理由は、「車を使わないで生活できる」（43%）、「買物が便利だから」（38%）が主体。
- 「思わない」理由は、「買物が不便だから」（55%）、「災害リスクがあるから」（52%）、「車で生活しづらいから」（49%）が主体。